

【タイ - 食品】

丸善製茶、来年初めに販売開始



ブンロート・ファームの茶畑の様子＝27日、チェンライ県（NNA撮影）

タイのビール大手シンハ・コーポレーション子会社のブンロート・ファームと緑茶などを製造・販売する丸善製茶（静岡市）の合弁会社・丸善フーズ（タイランド）は11月27日に北部チェンライ県の工場を正式に開所した。来年初めに販売を開

始する。

工場では深蒸し茶、浅蒸し茶、ティーバッグ、玄米茶、粉末茶などを生産する。当初は年産能力140トンで稼働し、来年末までに210トンに引き上げる計画。

まず国内の小売店、ホテル、レストラン、カフェなどに供給し、徐々に輸出を拡大する。想定している主な輸出先は、台湾、香港、シンガポール、フィリピン、インドネシア、ドイツ、ベルギー、英国など。初年度の売上高目標は3億5,000万バーツ（約12億6,000万円）。3年以内に年商10億バーツを目指す。

【タイ - IT】

タイのIT支出、来年は11%増見込み

調査会社IDCタイランドは、タイの来年のIT（情報技術）向け支出額が今年見込み比11%増の134億米ドル（約1兆5,900億円）に達するとの予測を明らかにした。景気回復のほか、携帯端末とクラウド・コンピューティングの利用拡大が支出額を押し上げるとの見方。業種別では、銀行、通信、製造業が引き続き支出額の上位に位置するとみている。11月28日付バンコクポストが報じた。

今年の支出額は、景気低迷と政局の混乱で前年比5%

増の120億米ドルにとどまり、増加率は2001年以来の低水準になると予測。パソコンの販売台数は、今年が前年比17%減の248万台に落ち込むが、来年は7%増の266万台に回復する見通しという。

タブレット端末（政府の児童向け配給制度を除く）は、来年が5%増の260万台。スマートフォン（多機能携帯電話）は1,920万台で、携帯電話全体は3,000万台と予測している。スマートフォンの販売台数は昨年が1,300万台で、今年が1,650万台の見込み。

【タイ - 建設】

リッチー・プレース、ナナ地区に複合施設開発

住宅開発のリッチー・プレース2002は、バンコク中心部ナナ地区のクルンタイ銀行本店近くで約2ライ（3,200平方メートル）の土地を取得したことを明らかにした。複合施設を開発する。11月28日付ポストトゥデーが報じた。

取得額は1タランワー（4平方メートル）当たり120万バーツ（約433万円）で総額10億バーツ以上。事業規模は35億バーツを見込み、商業施設、コンドミニアム（分譲マンション）、サービスアパートなどから成る複合施設を開発する計画だ。コンドミニアムの分譲価格

は1平方メートル当たり17万～18万バーツとなる見通し。

同社は現在、高架鉄道（BTS / スカイトレイン）シーロム線のウォンウェンヤイ駅近くに23階建てのコンドミニアム「リッチー・サトン タークシン」（全511戸）を開発中。分譲価格は1平方メートル当たり12万バーツ。既存顧客が70戸を予約済みで、近く一般顧客向けの販売を開始する。

リッチー・プレース2002は今年8月にタイ証券取引所（SET）に上場した。

【タイ - 農水】

粗糖からのエタノール生産許可、価格下支え

工業省のサトウキビ・砂糖委員会事務局（OCSEB）が、製糖工場各社に対し、粗糖を原料とするエタノール生産を許可した。製糖3団体が明らかにした。砂糖の輸出量を抑制し、付加価値を高めた加工品を流通させることで製糖産業を後押しする狙いがあるという。きょう1日から実施する。この措置により、砂糖用に出回るサトウキビを1億トン未満に抑制できるとみる。

3団体の調整役を務めるシリウット氏によると、砂糖

の世界価格が低迷しており、一定数のサトウキビをエタノール生産に回すことで、値崩れを防ぐ考え。製糖業界の昨年のサトウキビ消費量は1億366万トン。干ばつで供給が減少し、前年の1億932万トンを下回った。

政府は先に、稲作農家にサトウキビへの転作を推奨する10カ年戦略を固めている。実施されれば、2024年にはサトウキビの年産量が1億8,204万トンに拡大する見通し。